

<b>授業科目名</b>	教育心理学A（初等）(2100101)		
<b>時間割名</b>	教育心理学A（初等）(21105)		
<b>時間割担当</b>	岡村季光		
<b>実施期</b>	前期	<b>単位数</b>	2 必修
<b>曜日・時限</b>	火・1		

### 授業の目標・概要

本講義では、心理学とは何かについて言及した後、心理学の1分野である教育心理学の基礎的な知見について概観していく。授業の流れは、基本的に学校における1年間の流れを教育心理学の視点から追うことを基本とする。具体的には児童・生徒の適応やパーソナリティの把握、教授・学習のあり方、教育評価、家庭との連携、特別支援教育について教授する。

### 学習の到達目標

受講者が教育場面における人間の心理・行動を理解し、また適切に行動できるように支援することを目的とする。

### 授業方法・形式

- 1.それぞれの学習テーマに対して、テキストや補助資料を活用しながら授業を進めていく。
- 2.必要に応じて、取り上げるテーマに関する小テストを行う。

### 授業計画

- 第1回 イントロダクション：心理学とは・教育心理学とは  
心理学とは何かを言及した後、心理学の1分野である教育心理学の基礎的な知見について概観する。
- 第2回 適応について / 性格の理解  
新年度や入学直後において、担任がまずすべきことは、クラス内の児童・生徒の特性を把握することである。パーソナリティの一側面としての性格や適応について、心理学ではどのように捉えるか。
- 第3回 性格の把握 性格の観察・検査方法はどのようなものか。
- 第4回 知能とは  
授業を行う前に児童・生徒の能力を把握することは、教授内容や方法の検討に有効である。知的能力を心理学ではどのように捉えているか。
- 第5回 知能の把握  
発達検査・知能検査はどのような目的及び方法を用いるのか、また結果の活用はどうあるべきか。
- 第6回 学習理論  
人間はどのように学習を行うのか、主要な理論として刺激と反応の連合（条件づけ）や観察学習。
- 第7回 学習の条件 学習を行う環境構成や学習が進む条件とは何か。
- 第8回 記憶の仕組み  
記憶における「憶える（記録）、憶えておく（保持）、思い出す（再生）」という一連の流れ。
- 第9回 動機づけ（やる気）とは  
人間の“やる気”はどのような仕組みになっているのか、外発的動機づけ・内発的動機づけの特徴と両者の関係について。
- 第10回 やる気の喪失と復活  
やる気はどのような時に失われ、また復活をさせるにはどのようなかかわりが必要か。
- 第11回 教授法の特徴  
授業でよく用いられる教授法の利点と問題点を挙げ、問題点を補う教授法を実例を紹介する。
- 第12回 教育評価  
教育効果の検証には、必ず評価が必要である。“測定”にとどまらない教育評価の考え方とは。
- 第13回 家庭との連携：家庭学習の指導  
幼少期からの生活習慣は学習習慣と関連している。家庭と連携することにより、どのように学習習慣を形成していくか。
- 第14回 学業不振の原因と対応  
児童・生徒の学業不振の実態、考えられる原因と対応方法について。
- 第15回 特別支援教育の現状と課題  
特別な配慮が必要な児童・生徒に対して学校が求められている現状と課題とは。

### 成績評価の基準

授業中に行う小テストを中心に評価し、授業に対する理解度をチェックしていく（30%）。さらに学期末テストにおいて総合的な理解を確認する（70%）。

### 授業時間外の課題

授業終了後は授業で指示したテキストの該当箇所を読み、ノートにまとめる。小テストで理解できていない箇所は必ずテキストで該当箇所を調べる。

### メッセージ

- ・第1回目の授業で詳細についてオリエンテーションを行いますので、必ず出席をすること。

### 教材・教科書

豊田弘司(編著)『改訂版 教育心理学入門-心理学による教育方法の充実-』（小林出版，2009年）

## 参考書

授業中に指示する